

【情-2】 下水道事業等へのPFI・PPP導入に向けた情報整備調査 (対象箇所:千葉県習志野市)

【実施主体】習志野市

平成26年度

調査目的・これまでの経緯

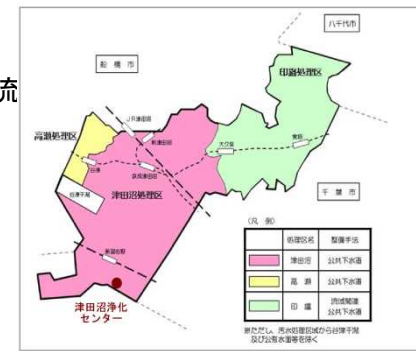
習志野市では、持続的な公共サービスを実現するため、官民連携事業の導入検討等に取り組んできた。本調査では、下水道事業を対象として、市が取り組むPPP/PFI導入の推進に向け必要な情報基盤を整備するとともに、関係者との合意形成や意思決定を促す選択肢の提示等、今後の事業推進に向けた課題や関係情報を整理した。

平成23年度 コンセッション導入に向けた法制度・会計上の課題の検討
(国土交通省官民連携支援事業調査)
平成24～25年度 基本計画及び実施計画、下水道料金の改定に関する検討

施設の概要

習志野市下水道事業
特徴:3処理区毎の異なる処理方法、一部合流

処理区	津田沼	印旛	高瀬
位置	市中央部	市東部	市西部
種類	単独公共下水道	印旛沼流域関連公共下水道	単独公共下水道(船橋市高瀬処理区)
事業着手時期	昭和41年	昭和63年	平成4年
排除方式	一部合流式・一部分流式	分流式	一部合流式・一部分流式
終末処理場名	津田沼浄化センター	花見川第二終末処理場(千葉県)	高瀬下水処理場(船橋市)
全体計画面積	1,261.2ha	686.0ha	88.3ha
事業計画面積	約1,033ha	約602ha	88.3ha



調査結果

1. インフォメーションパッケージ作成に資する事業情報の収集

インフォメーションパッケージを構成する事業情報の所在を調査したところ、**資産情報が不足していることが分かった。**

- 資産台帳の整備がなされておらず、資産情報を体系的に整理した情報源がない。
- 将来の更新投資計画の一部となる長寿命化計画は、津田沼浄化センターと秋津ポンプ場で策定済みであるが、管路は一部策定中、袖ヶ浦ポンプ場は未策定である。

2. 習志野市下水道事業が抱える課題及びPPP/PFIの方向性の検討

- 収集情報を踏まえて、習志野市下水道事業では、人口減少による収入減と施設老朽化への対応コスト増が大きな課題であることが判明した。
- 課題を解決するための一方策としてPPP/PFIの方向性を検討した結果、**包括的民間委託と合わせて特に資産情報の整備を進め、市としてPPP/PFIのノウハウを蓄積しつつ、将来的に公共施設等運営事業へ移行するモデルを検討した。**



3. 公共施設等総合管理計画等と連携した情報整備の方向性の検討

インフォメーションパッケージとして整理する各情報について、市が実施する予定の公共施設等総合管理計画、公会計改革、公営企業化との関連性を整理した。特に**公営企業化により資産台帳整備を行うことは将来のPPP/PFI導入においても有用性が高い。**

4. インフォメーションパッケージの構成と活用方法の検討

インフォメーションパッケージ構成は右図の通り整理し、現時点の情報を取りまとめた。また、その活用方策と具体的な情報更新の考え方について整理した。

今後の展望

○今後の予定

- 平成27年度 公営企業法適化、PPP/PFIに関する内部調整
- 平成28年度 資産調査開始
(可能であれば包括的民間委託開始)
- 平成29年度 公営企業法適化移行事務開始
- 平成30年度 公営企業法適化完了
- 5～10年後 公共施設等運営事業

○事業化にあたっての課題

- 下水道管理者としての技術承継
- 公共施設等運営事業の場合の、利用料金と一般会計繰入金のバランス